同志社大学SPRINGプログラムの必修・選択必修　一覧表 【旧制度】及び【新制度（区分1、区分2）】

2026.11

①2027年度から、SPRINGが提供するプログラムは、必修・選択必修・任意の3分類になりました。各プログラムの分類を確認の上、採用期間中に参加・受講するようにしてください。
②選択必修（〇）に関しては「選択必修グループ」毎に最低1つのプログラム（あるいは複数回開催のプログラムの1回）に参加・受講してください。
③【毎年】の記載があるものは毎年度、参加・受講してください。【毎年】の記載がないものは採用期間中に最低1回は参加・受講してください

	プログラム名等	プログラムの概要	分類 ●：必修、〇：選択必修、 △：任意	選択必修グループ	補足	2027年度の実施時期（予定）
A.基本事項						
1	研究費計画書	研究計画及び研究費の使用に関する具体的な計画を、毎年度、立案していただきます。限られた研究費を有効かつ計画的に活用することで、研究プロセスの質や効率を高め、着実な研究成果の創出につなげることができます。 研究費計画書の作成を通じて、研究者に求められる研究計画の立案能力、立場の異なる他者への説明能力、研究費の管理スキルの向上も目指します。 また、研究の進捗状況や実験結果によっては、研究費の使用計画を見直さなければならないこともあります。研究費の執行状況について、年3回程度のモニタリングを行い、研究計画の進捗状況の確認や計画見直しなど、研究費の有効活用を促します。これらのプロセスを通じて、研究費の効果的な使い方を学んでいただきます。	● 【毎年】			【計画書の提出締切】 （既存学生）3月12日 （新規学生）4月16日
2	海外活動計画書	支援期間中に少なくとも1度は海外活動を実施していただきます。本プロジェクトへの申請時に提出していただいた研究計画をベースとして、より挑戦的・融合的な研究への発展や、そのために必要となるグローバルな能力を養うための海外活動計画を立案・実行していただきます。実質的な渡航に限らず、グローバルな能力を高めるための国内における活動（たとえば、異文化、異言語の研究者や研究コミュニティとの交流や発表等）も海外活動に含みます。	● 【毎年】		※2027年度以降に採用された「区分2」学生については、対象外となります。 ※海外活動計画書の提出は必修、海外活動費の申請は任意	同上
3	活動報告書	SPRINGプログラムの受講状況、研究の進捗状況、海外活動状況、キャリア開発状況等、1年間のプロジェクト活動を振り返り、活動報告書として提出していただきます。	● 【毎年】			3月
4	社会人基礎力測定（PROGテスト）	トランスファラブルスキルの習得を狙いとしたSPRINGプログラムの有効性を定量的に分析するため、全選抜学生に対して、毎年度「PROGテスト」の受検を求めています。	● 【毎年】			2月1日～2月15日 （都合の良い日に40分程度）
5	ジョブ型インターンシップシステムへの登録	ジョブ型研究インターンシップ推進協議会が提供する専用システムへ登録（義務）するとともに、同システムの活用等により、定期的なインターンシップ情報の収集を勧奨しています。	●		※採用時に実施すること	採用後、速やかに実施
6	日本学術振興会特別研究員DCへの申請	2026年度以降の採用者に対し、日本学術振興会特別研究員DCへの申請を義務付けています。	● 【毎年】		※SPRING生D3生の日本学術振興会特別研究員PDへの申請は任意 ※2026年度以降の採用者は必修、2025年度以前の採用者は任意	学内締切：4月～5月頃 ※詳細は全学に対する案内を確認すること

	プログラム名等	プログラムの概要	分類 ●：必修、○：選択必修、 △：任意	選択必修グループ	補足	2027年度の実施時期（予定）
B.研究力の向上						
	競争型研究費					
1	競争型研究費への応募	研究費の追加受給により、より挑戦的・融合的な研究への発展を目指す計画を募集し、優れた提案には、追加の研究費を配分します。 選考は、申請書に基づく書面審査とプレゼンテーション審査により実施します。	△			6月14日～30日 募集期間 7月19日 採択通知
2	Research Pitch Day （競争型研究費プレゼンテーション審査会）	競争型研究費への応募者には、申請書（研究の発展計画）の作成に加え、本プロジェクト運営委員会委員（教員）やプロジェクト生に対するプレゼンテーションを行って頂きます。このプロセスを通して、研究計画の企画・提案能力、異分野の研究者に研究を伝える能力の向上を図ります。また、他の研究者・異分野の研究計画を聞く・知ることで、様々な気付きや新たな着想を得る機会とします。	○	（異分野研究交流プログラム）	※競争型研究費に応募する者は必修 ※競争型研究費に応募しなくても聴講参加可能	7月上旬
	異分野研究交流プログラム					
3	異分野研究交流会	「異分野の研究を知る」、「自身の研究を異分野の研究者に伝える」ことをきっかけとして、研究者としての新たな気付き、研究を発展させる着想等を得ることを主目的として異分野研究交流会を開催します。また、同じ立場の研究者が集い、互いの悩みを共有し解決のきっかけを得ること、将来にわたる研究者ネットワーク基盤の構築も目的とします。	○	（異分野研究交流プログラム）		8月第1週の土曜日
4	博士キャリアメッセ【第2部】	京都クオリアフォーラムが主催する「博士キャリアメッセ」【第2部】において、自身の研究に関するピッチやポスター発表等を通じ、他機関の博士後期課程学生や企業で働く社会人（博士人材等）との研究交流を図ります。また、同イベントに参加する他機関の博士人材との交流・ネットワーク構築により、キャリア開発における悩みの共有・解決、情報交換等、キャリア開発における基盤構築も目的とします。	○	（異分野研究交流プログラム）		11月頃
5	未来の博士フェス（JST主催のイベント）	JSTが主催する「未来の博士フェス」にSPRING生を派遣します。選抜制のため、希望しても参加できない可能性があります。	○	（異分野研究交流プログラム）	※選抜制のため、希望しても参加できない可能性あり	9月頃（※JSTからの開催案内による）
6	超異分野学会	異分野研究交流プログラムのいずれにも参加が困難な場合、「超異分野学会」が開催するカンファレンスでの発表等で代替することを認めています。	○	（異分野研究交流プログラム）	※詳細は超異分野学会のサイトを確認のこと https://hic.lne.st/ ※参加費は自身の研究費等から支払うこと ※海外開催への参加は「海外活動費」（要申請・承認）を利用可能	「超異分野学会」のサイトを確認のこと
	研究者基礎力養成プログラム					
7	英語アカデミックプレゼンテーション研修	外部の専門家から、論理的な構成でプレゼンテーションを組み立て、要点を分かりやすく伝え、幅広い聴衆を引きつける方法を、座学や演習を通じて学びます。この研修で学んだことを国際会議等の場で実践し、自らの英語プレゼンテーション能力の向上に継続的に取り組むことを期待しています。	○	（研究者基礎力養成プログラム）	※オンライン（半日程度）と対面（半日程度）の延べ2日間で開催。オンライン+対面の両方を一貫して参加することが必須。 ※京田辺、今出川、それぞれ1回、計2回の開催予定だが、参加者が少ない場合は、1回のみの開催とする場合もある。	（京田辺）5月頃 （今出川）6月頃
8	英語論文執筆ワークショップ	外部の専門家を招き、ワークショップ形式で、論文執筆時に留意すべき点、対処方法、研究成果をより魅力あるものとして提示するための方法等を学びます。すでに英語論文を作成したことがある方も、この機会に基本から学びなおす機会となります。	○	（研究者基礎力養成プログラム）	※本ワークショップは3モジュールから構成され、3日間にわけてオンラインで実施します。毎年度、一部のモジュールを入れ替えて開催します。興味のあるモジュールのみの受講も可能とします。	9月～10月頃 （計3日間を用いて3モジュールを実施）
9	研究マネジメントスキル	研究者には、研究の遂行能力に加え、研究や研究成果を適切に実行・管理する研究マネジメントのスキルも求められています。研究者として習得しておくべき基本的な知識や能力に関する研修をオンデマンド型で提供します。	○	（研究者基礎力養成プログラム）		オンデマンド型のため随時受講可能
	研究成果広報支援プログラム					
10	APC支援（ゴールドOA）	SPRINGの支援によって生まれた研究論文のオープンアクセス化のための費用（APC）を全額支援します。	△		※支援にあたり、掲載誌や掲載論文に関する要件あり	随時、受付 ※予算枠がなくなり次第、終了する
11	機関リポジトリへの論文掲載（グリーンOA）	学術雑誌等に掲載された査読済み研究論文の同志社大学学術リポジトリへの掲載を支援します。	△		※詳細は全学向けの案内をご覧ください。 https://rd.doshisha.ac.jp/rd/inside/oa/oa_support.html	随時、受付
	国際研究広報	SPRINGの支援によって生まれた研究成果について、学術論文プレスリリースポータルの一つであるEurekAlert!へのニュースリリースの掲載、そのためのニュースリリース文の作成（サイエンスライターに委託）を支援します。	△		※支援にあたり、掲載誌や掲載論文に関する要件あり	随時、受付 ※予算枠がなくなり次第、終了する

	プログラム名等	プログラムの概要	分類 ●：必修、○：選択必修、 △：任意	選択必修グループ	補足	2027年度の実施時期（予定）
C.国際性の涵養						
	海外活動プログラム ※2027年度以降に採用された「区分2」学生については、選択必修グループ「海外活動プログラム」の実施は「任意」となります。					
1	個人計画型海外活動	期首に作成した「海外活動計画書」に基づき、個人計画型海外活動を実施していただきます。個人計画型海外活動の遂行のために必要となる海外活動費（最大50万円）の支援を受けることができます。	○	（海外活動プログラム）	※2027年度以降に採用された「区分2」学生については、海外活動費の支援は対象外となります。	任意（※個々人で計画すること）
2	Doshisha Week at Univ. of Tübingen	世界大学ランキング上位に位置するドイツ屈指の総合大学であるテュービンゲン大学との連携協定に基づき、毎年テュービンゲン大学にて実施する「DOSHISHA WEEK」（両大学共催の国際シンポジウム、若手研究者の研究発表や交流の場）に参加することができます。	○	（海外活動プログラム）	※選抜制のため、希望しても参加できない可能性あり	12月頃
3	On-site Group Work（ALA科目群）	地球規模的な課題を抱える現場（海外）を訪れ、世界各地で現実社会が抱える困難な状況・問題を体感し、国際感覚の醸成、国際性の涵養につなげる産学共創のプログラムです。	○	（海外活動プログラム）	※選抜制のため、希望しても参加できない可能性あり	ALA科目群のシラバス等を確認すること
4	海外活動報告会	「個人計画型海外活動」を実施したSPRING生による報告会です。海外活動を通じて得られた成果や気づきを共有し、自らの振り返りを行うとともに他のSPRING生の海外活動の立案・実行への示唆を与えることを目的とします。	● ※補足参照 △ ※補足参照		※「個人計画型海外活動」を実施した者は必修。聴講は任意 ※「個人計画型海外活動」以外の海外活動プログラムの実施報告に関しては、各プログラムの指示に従うこと	以下の時期に複数回に分けて実施 春学期実施分：10月～11月 秋学期実施分：2月～3月
D.トランスファラブルスキルの習得						
	大学院共通科目アドバンスト・リベラルアーツ科目群（ALA科目群）					
1	フューチャーデザイン演習	多様なバックグラウンドの学生、社会人（研究者・技術者・自治体職員等）が参画し、共修・協創する科目です。自身の研究、能力・特性を社会・未来にどのように役立てることができるのかを改めて考察するとともに、自身の研究の位置づけ、方向性を明確化する機会となります。	●		※ディスカッションを中心としたプログラムとなることから、日本語での受講が困難な場合は、SPRING運営事務局まで相談すること	ALA科目群のシラバス等を確認すること （ご参考までに：過去実績） 京田辺：7月、11-12月 今出川：12-1月 いずれも集中講義
2	Capacity Development for Coexistence and Cooperative Works	ALA科目群のシラバス等を確認のこと	△			ALA科目群のシラバス等を確認すること
3	セルフアウエアネス（コーチング入門）	ALA科目群のシラバス等を確認のこと	△			同上
4	その他（「次の環境」協創ｺｰｽ/GRMｺｰｽ/SCコース/Comm 5.0提供科目）	ALA科目群のシラバス等を確認のこと	△			同上

	プログラム名等	プログラムの概要	分類 ●：必修、○：選択必修、 △：任意	選択必修グループ	補足	2027年度の実施時期（予定）
E.キャリア支援						
	インターンシップ					
1	国内インターンシップ	ジョブ型研究インターンシップ推進協議会の専用システム等を活用したインターンシップの実施を強く推奨しています。	○	（企業交流）	※国内インターンシップは、企業交流の一つとみなす	実施時期は任意
2	海外インターンシップ	海外企業や研究機関等へのインターンシップに対し、渡航費等の支援を実施します。	○	（海外活動プログラム）	※「キャリア支援」の一つと位置づけているが、「海外インターンシップ」を実施した場合は「海外活動プログラム」を実施したものとみなす	実施時期は任意 4月～5月　実施計画の確認
	ガイダンスやロールモデルを通じた学び					
3	博士キャリアデザインガイダンス	博士後期課程修了後の活躍の場として、アカデミア以外も含めた多様なキャリアパスへの理解を深めていただきます。「多様なキャリアパス」編では、文系・理系のアカデミア・企業・公的研究機関等へのキャリアパスに関して、ロールモデルとなる博士人材を招いた対話の場を提供します。	●		※年2回開催。採用期間中、少なくともどちらかに参加すること	第1回（総合）：5月～6月頃 第2回（多様なキャリアパス）：12月頃
4	博士キャリアカフェ（ロールモデル座談会）	アカデミア、企業、公官庁等、様々な立場で働く博士人材（ロールモデルとなる先輩）を講師として招き、学生時代の研究活動やキャリア開発、キャリアパス選択における経験談や現所属での研究活動等を語っていただきます。 博士キャリアデザインガイダンスとは異なり、基本的に少人数の座談会形式（対面またはオンライン）で実施します。少人数で実施することにより、よりリアルで深い話を聞ける機会となること、日頃聞きにくいことを聞ける雰囲気とすることを狙いとしています。 毎回、様々なバックボーンを持ち、様々な立場で働く博士の先輩方を講師として招きます。積極的に参加していただくことで、自身のロールモデルとなり得る先輩に出会うことを期待します。	● 【毎年】		※毎年度、4回開催のうち1回は参加すること	6月～2月の期間で計4回程度（7、10、12、1-2月頃予定）
	様々な交流を通じた学び					
5	プロジェクト生交流会	プロジェクト採用説明会の後、既存のSPRING生も交えたプロジェクト生交流会を実施します。日頃接点の少ない他研究科の博士後期課程学生との交流を通じ、異分野の研究に触れること、キャリア開発に関する情報交換・相談ができる人的ネットワークの構築等を目的としています。	●		※採用者説明会と同日かつ連続時間帯で開催するため、原則、採用年度の参加を必修とするが、やむを得ない事情により参加できなかった場合は、採用期間中に1度は参加すること	4月上旬（2027年度は4月6日午後の予定）
6	博士キャリアメッセ	京都クオリアフォーラムが主催する「博士キャリアメッセ」において、企業で働く社会人（博士人材等）との交流を通じ、企業における博士人材への期待、キャリアパス等の知識を得るとともにネットワーク構築を図ります。また、同イベントに参加する他機関の博士人材との交流・ネットワーク構築により、キャリア開発における悩みの共有・解決、情報交換等、キャリア開発における基盤構築も目的とします。	○	（企業交流）	※毎年度、2部構成で開催する。第1部または第2部のいずれかに参加すること。 ※博士キャリアメッセは「社会人（企業）との交流を中心としたプログラムのため「企業交流」の一つと位置付ける（第1部、第2部のいずれでも可）	第1部：7月頃 第2部：11月頃
	博士キャリア・コーディネーターによる総合支援					
7	キャリア面談	博士キャリアコーディネーターおよびURAとの個別面談を実施します。プロジェクト活動やキャリア開発に関する進捗・悩み等の共有を通じ、SPRING生自身の活動及びプロジェクト活動にフィードバックを図ります。	● 【毎年】		※年2回実施し、2回とも必修	春学期（5月中旬～7月中旬） 秋学期（12月～2月）
8	進路相談等	随時生じる個々人の悩み・相談に対しては、博士キャリアコーディネーターによるオフィスアワーで対応します。	△		※オフィスアワー（キャリア・コーディネーター）を活用すること	随時
9	1on1面談（LabBase社）	LabBase社の1on1面談サービスを活用し、多様な社会人メンターとの相談の機会を提供します。	△		※予算の都合上、年1度のみ利用可とする	随時 10月頃　利用意向確認
	その他					
10	博士キャリア合同説明会	博士人材を積極採用する企業20社程度（産総研も含む）を招き、企業PRプレゼンテーション、ブースに分かれての企業個別説明会、懇親会を通じて、企業の社風や事業、博士人材が活躍するポジションについて情報収集する機会を設けます。株式会社アカリクの協力を受け、京都・奈良の9大学程度が合同で主催します。	△			7月頃
11	アントレプレナーシッププログラム	東京大学「アントレプレナーシップ教育デザイン寄付講座」による教材を提供します。	△			オンデマンド型のため随時受講可能
12	大学教員養成講座（プレFD）	高等教育機関の教員として活躍していくための基本的な知識と技能を修得する大学教員養成講座（プレFD）を提供します。	△		※詳細は高等研究教育院のWebページを参照のこと。 https://next.doshisha.ac.jp/next/unique/pre-fd/index.html	高等研究教育院の案内を確認すること （参考）2026年度は10月～11月

注　実施時期は本資料作成時の計画のため、多少前後する可能性がある。実施時期が近付いたら具体的な日程等を案内するためSPRING運営事務局からの案内（メール）を確認すること

【SPRING生の採用区分の考え方】
・2025年度以前に採用された学生は旧制度による運用となるため「区分」の概念はありません。
・2026年度に採用された学生は、2027年度以降は新制度による運用に移行するため、「区分1」または「区分2」による支援に切り替わります。
・2027年度以降に採用された学生は、新制度による運用となります。